

# “令和三年 敬念寺報恩講法要厳修”

## ～コロナ禍・工夫を凝らして!～



報恩講ご法話の前に福井県西宮寺坊守様による脳トレ体操のようす! (3.11.10)



発行所  
岡谷市郷田一丁目6番3号  
TEL(0266)22-2524  
金松山 敬念寺  
発行  
敬念寺門信徒会  
編集  
会報組織委員会

朝7時はみ仏さまや  
彼(か)の人との  
出会(であ)いの時間

### 「新任職就任祝賀会」の御案内

かねてから計画の「新任職就任祝賀会・前任職御慰勞謝恩会」は、新型コロナウイルス感染症拡大により二年間延期しておりましたが、感染症対策に最大限配慮し酒食を伴わない形態で、左記により開催することとなりました。

なお、前任職様前坊守様におかれましては、養生が必要なご体調で会に臨席されることが難しいとお伺いしましたので表題のとおり、「新任職就任祝賀会」に計画変更して開催させていただくことになりました。

お世話人様をはじめ、多くの門信徒のかたがたにご参加いただきますよう、お願いの方々ご案内いたします。

—当日は門信徒会年次総会開催を予定しており、総会終了後引き続き、本祝賀会を開催いたします—

#### 記

日時 令和四年四月二十三日(土) 午後四時～六時

場所 敬念寺会館講堂

次第 ・「記念写真撮影」(本堂)

・開会挨拶 「式辞」「祝辞」

・祝舞

・住職継職式の振り返り(写真・映像にて)

・住職継職記念贈呈品紹介・披露、花束贈呈

・住職御挨拶・所信申し述べ、坊守様御挨拶

・仏教讃歌斉唱(CD音源により黙唱)

・閉会挨拶

ご案内 ・お世話人の皆様には、令和四年度門信徒会年次総会のご案内に併せてお知らせします。

・参加希望の門信徒の方はお寺まで申し込んでください。(申し込み期限四月十七日)

令和四年三月三十一日

会費：無料

(主催・主管) 門信徒会長 千原 博幸

#### ご寺院行事

- 令和4年度門信徒会年次総会 4月23日(土) 後2時
- 新任職就任祝賀会 4月23日(土) 後4時
- 第37回ファミリー参拝(サマースクール) 夏期計画予定
- 第41回早朝連続参拝 夏期計画予定

#### ご定例法話会

- 4月20日(水) 講師 遠山信敬先生(福井県)
- 5月20日(金) 講師 横内教順先生(東京都)
- 6月20日(月) 講師 天野真隆先生(兵庫県)
- 7月20日(水) 講師 中原昭俊先生(兵庫県)

いずれも毎月20日 夜7:00からです。

## 住職から ―年度末に当たって―

敬念寺の令和三年度行事・法要を終え、次年度に向けてこの一年の振り返りをいたします。

お寺を取り巻くご縁に支えられながら、何とかここまで至りました。

門信徒の皆様にはご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。また、門信徒会役員の方々には住職と共に寺の活動推進にご尽力いただき感謝申し上げます。

この一年を振り返ると、住職交代から二年が経ちますが、新しい活動や事業も出来ずに過ぎてしまいました。

新任職としては、ここまで築いてこられた先哲の功績を維持していくだけでなく、さらなる敬念寺の発展を目指していかなければなりません。が、進展していない現状を反省するばかりです。

住職継職と期を一にするかのように広がった新型コロナウィルス感染症によって、現在の私たちの日常生活はコロナと共にある状況です。

お寺の活動の大半は「集う」という場において始まる事が多く、三密回避や外出の制約を受ける状況は、大きなマイナ要素として作用してきました。世の中が生活様式を変えてきている中であって、お寺の活動もこの状況下、どのようなべきか自問自答しながら、また、悩

むまま過ぎてきたこの一〜二年間でもありました。

数年前より前任職のもと、お寺と共に門信徒会では「敬念寺中長期ビジョン」という、これからの敬念寺の方向性を考える会議を積み重ねてまいりました。「今抱えるお寺の問題点」、「門信徒の抱える悩み」、「社会におけるこれからの寺のあり方」など敬念寺の取り組むべき課題を細かく検討してきていただきました。

一、組織の世代交代  
二、門信徒が参画できる場所の再構築（青壮年部や研修会など）  
三、教義・儀礼法要の充実

など具体的に掲げられています。

今後はそれらのみえてきた課題について、敬念寺の舵取りをする住職がどのように方策を固め、行動していくかという段階になっております。思うところあって棚上げにしているとしたいところですが、先見性や住職という立場・責任について自らに問うばかりです。

コロナ感染症終息が見通せない状況ではあります。が、新年度に向け、これらの社会状況を考慮しつつも臆すること無いよう、抱える課題に取り組み、具体的な行動に現わしていきたいと思っております。

お力添えをさせて頂いて下さる門信徒の皆様方に、重ねて感謝いたしますと共に、今後もお支え下さいますようお願いいたします。

合掌

## 小僧の目

少し前「倍返しだ！」という決めゼリフが流行ったテレビドラマがありました。▼逆境から逆転するという話は人気がある場合が多いように思います。架空の話として考えれば何事も無いのですが、一つ間違えると大変な事態になるのではないかと考えてしまいます。▼「目には目を歯には歯を」ということわざがあるようにやられたらやり返すのが定石のように思われがちですがすべてが当てはまるとは限らないと思います。▼現在ロシアとウクライナの間で、大規模な紛争が起きています。▼正確なことはわからないので、どちらがよくてどちらが悪いということは言い切れないことですが、大勢の人の命が奪われている報道を耳にします。遠い異国のことと割り切ることはできません。▼浄土真宗本願寺派としても先の大戦では国の施策に準じて加担をした過去があります。私自身戦争を知らない世代であり、当事者ではないので思いは至らないかもしれませんが、仏教にはすべてのものは相寄り、支え合っているという縁起の教え「兵戈無用」（兵も武器も用いない）という教えがあります。そしてそれぞれのいのちが等しく尊いことからすると、悲しむべきことでありあつてはならないことだと思えます。▼また、釈尊は「怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みをすててこそ息む。これは永遠の真理である」（ダンマパダ第5偈）とあり、諍いによつていのちの奪い合いが繰り返されることを心配されています。▼自らの境遇が渦中にあつたとして同じ思いに至るかは分かりませんが、「いのちのあり方」や「尊さ」という思いを失いたくはないと思うのです。▼縁に触れれば何をするか分からない身だからこそ心すべきことだと私は思います。▼宗祖は和讃の中で「人間としての小さな慈悲さえも持たない身では、仏さまのように人々を救うことなど思っても不可能である。」と、嘆かれまじく。▼慈悲の反対語は無関心です。阿弥陀さまのような大悲心はなくても「いのちを慈しむ心」の心を大切にしたいものです。

釋 宏真



# 令和三年度 各委員会活動報告

## 常任委員会

会長 千原 博幸

役員任期最終年度となる令和三年度は、前年度に続いて新型コロナウイルス感染症防止のために人の集う活動等の制限を受け寺院法要規模の縮小や教化事業等の門信徒会活動制約を余儀なくされた一年となりました。

主な活動としては、①寺院で開催される各法要・行事に感染症予防対策に配慮・工夫を施す中で事業協力・奉仕、②寺院の営繕・保守事業の推進・支援(参拝ホール自動ドア修理、境内植栽樹木の剪定・養生)などを実施し寺院活動に協力しました。

また、前年度からの繰り越し案件であった「新任職就任祝賀・前住職御慰勞謝恩会」は、新型コロナウイルス感染症蔓延により、当年度も「門信徒会総会」と共に開催を断念せざるを得ないこととなりました。新年度では、役員更改に伴う新体制の構築と、新たな事業計画の策定・活動推進が求められ、また感染症対策等に周到に備えた「門信徒会総会」・「新任職就任祝賀会」の開催が期されます。

## 教化委員会

委員長 鷹野原 仁

今年度も、「フアミリー参拝」「早朝連続参拝」「報恩講」「研修旅行」を活動の四本柱として計画しました。残念ながら、再びの新型コロナウイルス感染症拡大により、多くの人が集うこと、また飲食の制約もあり、「フアミリー参拝」「早朝連続参拝」については中止せざるをえませんでした。

「報恩講」については、感染防止対策として作品展の縮小、「お齋」の中止と内容を縮小して行いましたが、法要後の「ご法話」を企画し、福井県西宮寺ご住職で布教使の三寄霊証先生にご出仕いただきました。

当日には、西宮寺坊守様もご参拝いただき、ご法話の前に楽しい歌の指導や脳トレ体操をしていただき、報恩講を盛り上げていただきました。

「研修旅行」も今年度での企画はできませんでしたが、令和五年に本山大厳修される、「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」への団体参拝の可能性を模索しながら、次年度で検討することといたしました。

全体的にみて、やむを得ない面もありましたが、皆様と親しく顔を会わせる機会もなくなってしまう寂しさを感じるころであります。

コロナ終息により、活動が再開できお寺に賑やかさが戻ることを期待しています。

## 財務委員会 ―感謝の一言―

委員長 西山 周治

どんな集まりでも組織でも、覗いてみると財務とか会計とか名がつく部署の方々は、四六時中、会費は集まったろうか、お金は足りるだろうかとお金の心配ばかりではないでしょうか？

敬念寺門信徒会の財務委員会もご多分に漏れず頭の中は、阿弥陀様の「お陰さま」ではなく、「お金さま」で一年間終わってしまいました。

あげくの果ては、当会からの払い込み期限を失念し、相手先様から督促を頂く始末でした。

ですが、門信徒会の会費・護寺協力金はお世話人様・ご門徒様のご理解、ご協力のお蔭をもちまして収納いただいております。感謝の一言です。

(話は変わりますが私の思いを) 四年前、財務委員を委嘱されたとき、同じく委嘱されたお二人とお話いたしました。「折角、委嘱されたのだから浄土真宗を少し勉強しましょうね!」「法名はご存じですね?私、頂戴しているんですよ!」とお話しをして、びつくりされました。法名つてなくなつた時に?「イエイえ!生前に戴きお釈迦様のお弟子になりますと名乗りを上げるんですよ。」「お二人とも法名を戴いてくださいね」、とお話ししました。・・・また戴いていらつしやらない方はどうぞ・・・

## 婦人部

部長 望月 富子

七年前、婦人部副部長の役を賜り宮下部長さんにお寺の行事、婦人部の役割と活動、門信徒さんへの接し方等教えていただき、自分なりに理解した三年間でした。部長となって、今までの経験とお寺様、各委員会役員の方々、部員の皆様、そして会員の皆様のご協力があり活動することが出来ました。

活動中大変と思うこともありましたが、楽しいこと、勉強になることもたくさんありました。毎年の研修旅行、婦人部の日帰り旅行、コールガンダーの練習、報恩講の前日から準備し、皆様から「とても美味しいよ」と言っていたいただいたお齋の料理作り、他寺の方々との交流などです。

今年度は引き続きコロナ禍で寺全体の活動に制約がありました。皆様と相談しながら、活動しながら活動してきました。また、コールガンダーは参加者が減少しましたが、新名簿を作成し活動再開に備えています。

## 会報組織委員会

委員長 白田 正夫

今年度も「敬念寺だより」を三回お届けすることができました。コロナ禍でお寺の活動が制約されたこともあり、お寺・門信徒会の動き等あまり発信できず充実した紙面にできなかつたことが反省点です。

# トピックス

境内でいちばん古く由緒ある庫裏前の松の木の様子について、一部枝枯れがあり整枝されたことを前号でお知らせしたところですが、その後様子を見守ってききましたが、樹勢回復せず昨年十二月に止む無く伐採されました。写真のように、松くい虫ではありませんでしたが、中心部が虫に喰われており残念な結果となりました。これで、「金松山・敬念寺」を象徴する三本の松の木が残り一本となりました。また、境内入口右側の「紅葉」の大木も樹勢が弱ってきており、

造園業者により、枯れた枝の整理や幹の養生の手当をしています。現在、今春の芽吹きを期待しながら見守っているところです。



幹に麻布を巻いて養生中の紅葉 (3.7.30)



枯れた部分を整枝中のようす (3.7.30)



伐採された松の樹 (撮影3.12.6)

## 令和三年 報恩講

十一月十日に厳修された報恩講法要では、今回も菊鉢で境内を飾り参拝者をお迎えしました。



## 編集後記

諏訪湖が結氷した朝が何回かあり寒さ厳しい今冬でしたが、ようやく春めいてきました。今号では、私共門信徒会役員の間四年間の任期が終了することもあり、各委員会・今年度の活動を振り返る記事を掲載いたしました。とは言っても、引き続きコロナウイルス感染症の影響で、思うような活動が出来なかったのが現実です。その中にもあっても、敬念寺では変わらずに朝七時の日曜礼拝、毎月二十日夜七時から常例法話会が行われています。本山のホームページで、「浄土真宗は出合いの仏教」とあります。お寺にお出かけいただき、「聞法」の場に出遇う中で、「出合い」を見つけてみませんか。

(白田記)

## 令和四年度 門信徒会 年次総会開催の御案内

- 一日 時 四月二十三日(土) 午後二時～三時半
- 一 場 所 敬念寺会館二階「講堂」
- 一 議 題 令和三年度事業報告・決算報告  
令和四年度事業・予算案承認の件  
役員改選の件

★年次総会終了後、「新任職就任祝賀会」を開催いたします。引き続きのご出席をお願いいたします。(会費無料)  
お世話人の皆様には総会開催通知とともに、四月十日頃までに封書でお知らせします。(返信ハガキ同封)

◎総会は地区世話人等の代議員制です。地区世話人等を通じてご意見をお寄せください